社会分科会　エデュスクラムの活用における成果と課題

	成果	課題
課題設定	本単元は日本の地域的特色について扱うため、「日本の成長戦略を考える」という課題を設定することで、プロジェクト学習に適切なものとなった。	複数の視点から日本の成長戦略を考えさせるようにした結果、それぞれの視点に有機的な関連性を見出すことが困難なグループが多かった。
フリップやアイテム完成の定義	完成の定義として、「意味の分からない言葉をスライドや発表の内容で使っていないか班員に確認してもらう」ことを設定したため、調べた内容をそのまま写すということが減った。 フリップをデータ化し、タブレット端末上で操作できるようにした結果、アイテムを整理しやすく、タブレット端末で作業しながら、随時他の班員の取り組み具合が確認できた。	情報リテラシーが十分に身に付いていない中で、インターネットを中心に情報を収集すると、誤った情報が紛れ込む可能性がある。それを防ぐために、完成の定義を「２つ以上の資料を参照していること」というように設定することが有用であると考えられる。 １つのアイテムで扱う内容が大きすぎて、作業が分担されないため、具体的なアイテムを考えさせる必要がある。
ブック	学習の流れや、目的、発表内容に関する注意事項など、ブックの内容が充実していた。そのため、学習を進めるに当たり分からないことが出てきた場合も、ブックを確認することで生徒が自律的に学習を進めることができた。	教科書や資料集の他に参考となる資料の提示が少なかったため、信頼のおけるサイトを２次元コードで読み込めるようにし、ブックに掲載しても良かった。
協働的な関わりを促す手だて	協働学習中は、その日に行ったことを振り返らせるシートに記入するためのミーティングを毎時間、授業の最初と最後に５分間設けた。また、作業中も班に応じてミーティングを設けさせるようにし、個人で作業を行う時間と、協働的に作業を行う時間を分けることで、意識的に協働的な学習を行うことができた。そのシートについては教員からもコメントを入力することで、授業の狙いに沿った学習を進めることができた。	学習のゴールである発表の質を向上させるために、内容を最小限にし、班の中で発表し合う時間を作ることが考えられる。発表に関するアイテムについても通用するような完成の定義を設定することで、協働的に発表の準備を進められると考えられる。
授業実践で明らかになったこと	○エデュスクラムを取り入れることで、従来のグループ学習に比べ、教員主体で進める時間が少なく、生徒が自律的に学習を進めることができる。 ○生徒を見取る時間を確保できるため、教員は生徒の学習調整に向けての支援を行うことができる。	